

**信州大学知の森基金を活用したグローバル人材育成のための短期学生海外派遣プログラム
実施状況および成果**

プログラム名	次世代型学習を考えるためのニュージーランドの学校視察とホームステイ研修	
学部・研究科名	教育学部	
実施期間	2016年8月6日～8月15日	
研修先(国・都市・施設名)	ニュージーランド教育機関 (ニュージーランド・クライストチャーチ・小中学校・大学等)	
参加者数： 5名	知の森基金からの支援者： 4名	
プログラム概要	本プログラムは、日本の一般的な授業スタイルとは異なる「多様で柔軟な学習スタイル」を日常の授業に導入しているニュージーランドの教育実践を体験的に理解するものである。ニュージーランドの教育の概要については、出発前に引率者による事前学習会を通してその特色を理解すると共に参観視察のポイントを学び、海外研修中に実際の学校現場で短期教育実習とホームステイを経験しながらニュージーランドの教育をリアルに学ぶ教育学部生向けの海外研修である。滞在期間中は母親が日本人であるホストファミリーに協力いただき、ニュージーランド流の家庭教育と学校教育の連携を学ぶことも重要な研修目的にした。これまでの自分の学校教育イメージを払拭し、一人ひとりの子どものためにどういった理念と教育観のもとに教育が実践されているかを虚心坦懐に見地取材を通して理解するプログラムである。	

実施状況・成果

【日程概要】

8/ 8(月) 研修準備・観光を兼ねてテカポ湖畔へ宿泊
8/ 9(火) テカポ湖畔の観光と移動（ホームステイ開始）
8/10(水) Halswell小学校での実習
8/11(木) Merrin小学校での実習
8/12(金) Springston小学校 & Lincoln大学 & Casebook中学校の参観／研修の総括ミーティング
8/13(土) ホストファミリーと過ごすホリデー
8/14(日) 移動日（ホームステイ終了）

クライストチャーチ市内の公立小学校2校でのそれぞれ終日の教育実習と、郊外農村地区の小学校と中学校および大学の3箇所の教育機関の視察と質疑応答をセットしての現地校参観プログラムは、参加した学生の感想からも裏付けられる通り大変好評であった。さらに、ホームステイをセットしたことで、ニュージーランドの家庭教育がどのように学校教育と連携しているかを理解しやすくなったことも満足度を上げた理由である。短期研修ではあったが、内容の濃いプログラムであった。

昨年度の同研修ツアーで訪問したデンマークの教育が、福祉国家型の社会システムと連動した学習意欲重視の教育実践だったのに対し、第2弾の本プログラムは、学習者主体・対話的なアクティブ・ラーニングの典型事例として紹介できるニュージーランドの教育を実地視察するものでもある。特に、朝から終日特定の学校において教育実習を体験するという企画は、学生が子どもの目線から学校教育を理解する上で有効だったと言える。そのことが基礎となり、グローバルな見方・考え方を鍛えることに貢献できたと考える。

なお、本プログラムに参加する学生により構成される「次世代型学習を考える会」は、帰国後に複数回の学習会を開催するが、10月7日(金)16:30～教育学部キャンパスにて、ニュージーランド教育研修報告会を公開フォーラムとして開催し、多くの学生や教職員に今回の研修成果を公開したいと考えている。

学生の声①ー教育学部 学生

実際に学校で教育実習をさせていただけたことが大変勉強になり貴重な体験となった。やはり「個に応じた教育」は子どもの姿を見つめ、特定の子どもの動きを追いながら授業を見ていかないと分からないと実感した。そういう意味では1日に1校(1学級)に入り込んだ参観実習は良かったが、欲を言えば最低3日間は同じ学校の同じ学級で実習させてもらいたかった。子どもたちと仲よくなりバリアが取れた頃お別れとなってしまった点が残念だった。

学生の声②ー教育学部 学生

1日ずつではあっても、学校での教育実習経験や学校参観ができたことは貴重な経験だったが、それ以上に、ホームステイでニュージーランドの家庭教育や学校との連携の一端が理解できたことが大変良かった。日本の教育も良い点がたくさんあると再確認したが、他の国の教育を学びながら相対的に理解することが大切だと思った。ホームステイもできればもう少し長くいたかった。

Springston school で歓待された研修チーム



Halswell school で実習する学生

